

きっかけをつなぐ旅によう「パスポート」

# PASSPORT.

vol. 61  
FREE PAPER  
地域の出来事に触れる  
ソーシャルマガジン

ダッシュ隊徳島 特集 dash tai tokushima



Editor's note 編集後記

みんなと生きる未来が楽しみになる旅でした。

取材を通してたくさんの人と出会い、新たな繋がりを得た今号。川島さんの情熱も、高田さんの成長も、私自身の心に強く訴えかけるものがありました。ダッシュ隊という場所で集い、学び、そこを飛び出て活躍していく。未来への希望が育つこの場所を、これからも応援していきたいと思いました。余談ですが、対談ってなかなか難しいし恥ずかしいですね(笑)これからもっともっと精進して参りますので、どうか暖かく見守っていただければ幸いです。

ー 長谷川 (構成/写真)

たくさんの想いに触れた今回の旅。印象に残ったのは懸命に自分と向き合う、子どもたちや高田さんの姿でした。皆の将来を思うと、わたしたちが生きる未来はたくさんの可能性があって、輝いているんじゃないかと思えます。そして最後に、この編集をしている際、PC充電器が壊れて長谷川さんとヤマダ電機に走ったのも良い思い出となりそうです。いつも助けてくれてありがとう。次号も頑張ります！

ー 神倉 (デザイン)

**NEXT ISSUE 次回予告** 2017年5月配布予定。次回の旅も是非お楽しみ下さい。

とくしま市活センター TOKUSHIMA NPO CENTER

発行月 2016年2月  
号数 61号  
発行 徳島市市民活力開発センター  
〒770-0847 徳島県徳島市幸町3丁目71番地の1 幸町会館1階  
[TEL] 088-611-3886  
[FAX] 088-624-3860  
[mail] nposhimin@fm.nmt.ne.jp  
[WEB] www.tokushima-shikatsu.com



↑そびえ立つ長谷川

ABOUT PASSPORT.

徳島市市民活力開発センターが発行する“PASSPORT.”それは皆さんを特別な旅へとお連れするチケット。行きゆく先に広がるのは、団体の活動や人の想いに触れる景色。これを手にする皆様に、素敵な出会いがありますように。

See you next time.

この広報誌に関するご意見、ご感想は発行元である徳島市市民活力開発センター(088-611-3886)までご連絡下さい。



めっちゃみんな生き生きしてた。ずっと楽しみにしてたって。

— ダッシュ隊 徳島特集「東北と徳島子ども学びプロジェクト」

photographer by Rie Sakai



# Dash tai Tokushima Story



## — ABOUT Dash tai Tokushima.

徳島を拠点に被災地支援を行うボランティア団体。  
東北の復興支援・心のケアの支援のみならず地域・コミュニティの再生、自然環境の保護等多岐にわたりボランティア活動を行っていくことを目指している。

■プロジェクトのご参加やお問合せはこちら  
ダッシュ隊徳島  
[TEL] 090-1572-1920 川島淳 (かわしまじゅん)  
[mail] dashtai0311@yahoo.co.jp  
[HP] www.dash-tokushima.info



「東北の子どもたちを笑顔にしたい」  
そんな想いから始まった  
東北の子ども受け入れプロジェクト  
全力で遊び、学び、交流する・・・  
それは東北や徳島の子どもの心へと深く刻み込ま  
れたい。

2012年夏、藍染体験やSUP(スタンドアップパドルサーフィン)、炭焼き体験に阿波踊り、7日間に渡る東北の子どもたち受け入れプロジェクトが開催された。そこには、東北も徳島も関係なく笑い合う子どもたちの姿があった。遊びから学びへ、それは年を経るごとに少しずつ震災に向き合い防災を考えるものへと変化していくことになる。3回目の開催となった2015年、新たな試みが始まった。TEEN's防災東北と徳島子ども学びプロジェクトである。プロジェクトの開催と同時に、集まった東北の子どもたちと徳島の子どもの心とが数人ずつのグループに分けられ、共同生活を送っていく。徳島の自然と文化を満喫し楽しむことはそのままに、防災について自分達でテーマを決めて課題を探し、解決策を模索する。一緒に過ごす時間の中で自然と心の内を話すようになり、各々が考えた答えをプロジェクト最終日に発表する。参加者の感想には、次のようなことが綴られていた。「苦しい思いをするのは私たち東日本大震災を経験した者だけで充分。忘れないでほしいのは、当たり前にあるものは当たり前にあるものじゃないということ。だからこそもっと周りに感謝してほしい。率先して避難をしてほしい。命があればお金は稼げる、思い出をつくることも、誰かと笑ったり泣いたりすることもできるのだから。」彼らの言葉は、徳島の子どもの心へと深く刻み込まれていた。



## Dash-tai Tokushima Story



■ かいご 邂逅する東北と徳島の子どもたち  
あまりにも深い傷跡を残した東日本大震災。崩れ落ちる建物、押し寄せる津波、とても現実とは思えないその様子をテレビで見た6年前、「何か支援できることはないか……」と思いついた。直ぐには現地にいくことは出来なかった。それからの日々はずっと、頭の中でモヤモヤしていたという。

偶然……知り合いの団体がツアーを組んで東北へ支援に向かうことを知り、参加することにした。「あんどきに、スイッチが入った。」実際その目で見た景色が、くすぶっていた川島さんの背中を押した。「なんか向こう（東北）の子らって、色んな辛い気持ちを表情に出さんと頑張りよんよな。日だけでも、瞬だけでもいい、何かこの子たちが心から笑える時間をつくることができないだろうかと思った。」そんな経験から、東北の子どもたちを徳島に招いて徳島の子どもたちと交流しながら学ぶプロジェクトを思いついた。「ななせ東北の子たちを楽しませたかった。それにこつち（徳島）の子らが彼らに会うことで、何か変わることもあるんじゃないかと思った」

「向こうの子達とこつちの子達を会わせなかった」  
ダッシュ隊徳島隊長 川島淳さんはそう語る。

■ 遊びと学びが詰め込まれた時間  
プロジェクトの中では、東北の子どもたちと徳島の子どもたちが一緒に過ごす防犯のことに触れる機会がある。当時のことを振り返ることは辛いことかもしれない。それでも、海で遊んだり、阿波踊りをしたり、共同生活をするうちに腹を割って話ができるようになる。プロジェクトが終わってからも子ども同士で繋がりをもち、たまに遊びに行ったりしているそう。徳島の子たちにとって遠い出来事に感じがちなの震災のこと、もはや他人事ではなくなるといふ。

また、学ぶのは子どもたちだけではない。立ち上げ当初、思い立ってから実際に子どもたちの受け入れプロジェクトを開催するまでの期間は三ヶ月しかなかった。「みんなと必死だった。無理なんかじゃない、やろう思ったらできる！って、無邪気だったというか、大変だったけど楽しかった」と、当時のことを振り返る。自然とみんなの意識が合致して、視野も広がった。「大人も子どもも一緒に頑張って遊ぶ。ぼんでみんなが学べる場になったらええなあ」

■ 交流が培う未来の人材  
「イメージは寺子屋、みんなが寄り集まる場所にした。」人との出会いが何よりも学びになる「川島さんがよく口にする言葉だ。夏のプロジェクトに限らず、被災地支援に関わる仲間との出会いも活動する原動力になるといふ。」とにかく楽しむ。自分らが楽しいなかつたら周りの人や楽しませんてえなあ」そう笑いながら話す姿を見ると、実は誰よりこの人自身が楽しんでいるのでは？と思ってしまう。楽しみにながらも真剣に子どもたちと向き合い、地域を支える人材を育てていく。いずれ訪れると言われている南海トラフ地震……そのときに前に立っているのは、ここで出会った子たちなのかもしれない。



ダッシュ隊徳島 隊長

## 川島 淳

Jun Kawashima

“自分が楽しむ”をモットーとし、“人との出会い”を生きがいとする。特技は熱く話すこと。妻と3人の子供と共に、持前のその情熱で隊を導く。

# Dash tai Tokushima Story

Mai Takata x Shun Hasegawa



## INTERVIEW

### 高田 麻衣

Mai Takata  
徳島大学総合科学部4年生

2016年7月にダッシュ隊徳島の活動へ参加したことが転機となり、以降積極的に地域活動に取り組む。現在は、ダッシュ隊徳島・地球温暖化防止活動推進員学生員・未来うつば協会隊員として活動している。



一年前には何もなかったと話す高田さん。  
今やダッシュ隊だけでなく多方面で大活躍の彼女に起こった変化とは？  
スタッフ長谷川がその真相に迫ります。

隼さん、おひさしぶりです！

おお！あれ？  
なんかめっちゃ変わったなあ〜

**長谷川** いきなりのカミングアウト？なんですけど、実は僕ら三年前に知り合ってるんですよ(笑)

**高田** 隼さん(長谷川)が当時運営していたイベントに参加してもらって以来ですよ…：本当に久しぶりです(笑)

**長谷川** またこうやって関わるようになるや思ってたから、びっくりした！最近ダッシュ隊の活動のみならず、多方面で活躍しているみたいだね。

**高田** そうなんです。実は未来(ミラクル)うつば協会にも所属していて、よく海陽町で活動させてもらってます。

**長谷川** 三年前からは想像し難いほどアグレッシブになったよね。なんか変わるきっかけがあったんだろうか？

**高田** でもほんと、昨年の七月までは全然こんなじゃなかったんですよ。7月半ばぐらいにダッシュ隊が主催する熊本でのボランティアに参加したんです。

それからたくさんの人に出会うなかで学んだというか、踏み出すきっかけをもらったんですね。

**長谷川** なるほど。それってすごい心境の変化だと思うけど、何か具体的に変わったところはあるかな？

**高田** とにかく昔は自信がなくて、私にながでできるんやろうみたいな。あんな風になりたいって思ってたけど、なれない。そんな自分に劣等感を感じていたこともあって。前は自分のことを変えないかん思ってたけど、別に変わらんでも、自分にもできることがあるんかなって思うようになりました。

**長谷川** 自分のことを認められるってすごく大事なことよね。それは強さに繋がるし、自然と前向いて歩けるようになる。

**高田** そうなると、益々楽しくなりますよね。余計に考えるもんが取っ払われて、景色が変わるといっか…

**長谷川** そうやねえ。今はとても楽しんでいるように見えるね。

**高田** はい！毎日楽しくて仕方ないです。なんで地域活動してるの？って言われても、楽しいからってだけなんですよ。

**長谷川** めっちゃええやん！地域活動とかボランティアとか、みんな小難しい理由探しがちで。地域のためとか、自己の成長のためとか、もちろん大事なことはあるけれどももっと単純でもいいのでは？って思うよ。

**高田** 私の場合は、まずパツと関わる人達の顔が浮かぶんですよ。でも、人のためっていうのではないよな…

**長谷川** 好きなんじゃない？そこにいる人達が。その地域の人やったり景色やったりが、あなたにとってそれだけ大切なものになってるんだろうね。

**高田** そうですね、ほんとにもう宝物って感じで。自然とそれを守りたいって、気付いたら行動してる。

**長谷川** そうそう！しないといけないとかいう義務的なものじゃないよな。

しかしまあ、こんな卒業間際の時期によくそれだけ田舎通いまくって活動に没頭できるなあって感心するよね。旅行とか遊びとかが行かないのかい？

**高田** もはや毎日卒業旅行みたいなもんですよ(笑)っていうか隼さんも大学生のとき全く一緒ような感じだったじゃないですか。

**長谷川** そっぴやそっぴやした。ほなっつておもしろいでえなあ(笑)僕もそうやったけど、元から、地域活動したい。なんて想いを抱いていたわけではなかったんよね。それがいつの間にか、地域の人や景色に惚れてバリバリ活動していく人になってる。これって本当に素晴らしいことだし、自然な流れなんだと思うよ。あなたにとっては、そのきっかけとなるのがダッシュ隊だったんやね。

**高田** ダッシュ隊は、成長できる場って感じですね。それにメンバーが家族のようにあったかくて…：思い切って参加して本当に良かったです。

**長谷川** 最後に、後輩たちに何か伝えたいことはあるかな？

**高田** もっと早く、この楽しさに気づいていればよかったって、すごく後悔してるんですよ。

だからこそまだ時間の残された後輩たちには、怖がらずに一步踏み出してみてほしいって思う、そしたらきっと世界は広がるから。

**長谷川** 確かに。でもそれがなかなか難しいよね、経験したからこそ分かる話だったりするわけだし。で、僕もあなたもこれから社会人として、活動の楽しさを知る人として活動していくわけやん。なんかこう、この楽しさを知ってもらえるようなきっかけを一緒に生み出してほしいよね。自分の目で、感じてもらえる機会をつくりたいな。

**高田** そうですね！何かしたい、でも何をしたらいいんだろう？と思ってる子たちに、いくらでも失敗できる、学べる、ワクワクの詰まった場所をこれから作ってきたいです。若い力を全力で応援できる社会人になるため、私もこれから頑張りますね！